

節電サマー in 阪南病院

3月の東日本大震災と続く原発事故のショックは未だ大きなものですが、このまま原発の停止、休止が続くと日本の電気は底をつく状態、今年以上に来年以降の電力不足が深刻とも言われます。

当院でも、節電に向けて取り組みを始めております。

目標：電力消費量15%OFF
エアコン26
昼間の消灯(蛍光灯の間引きを含む)

といった取り組みを患者さんのエリアでも負担のない程度で実施しております。院内各所に右のポスターやステッカーを貼ってご協力をお願いしております。

また、職員エリアは、上記の取り組みはもちろん、ライトダウン特定日設定、クールビズなど実施し、節電に努めています。

今年も暑い夏ですが、「地球に優しい取り組みを私たちから。」始めてまいります。ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

当院は環境省のガイドライン「エコアクション21：ライトダウンキャンペーン2011」に参画しています。

当院では、
今夏消費電力15%OFFを
目標に節電を行います。

節電サマー in 阪南病院

東日本大震災と続く原発事故のショックは、まだ大きなものですが、このまま原発の停止、休止が続くと、日本の電気は底をつく状態。今年以上に来年以降の電力不足が深刻とも言われます。

当院でも、消費電力減少を目的に、これまで以上に節電に取り組んでまいります。具体的に今夏は、空調温度や昼間の消灯などを実施し、15%の消費電力減を目指します。



院内あげて取り組んでまいりますので、皆様のご協力、ご理解の程、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

医療法人杏和会 阪南病院

基本方針

人 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

最 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

光 と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地 域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

信 頼される医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

2008.4.1 改定

院内

花

院内の花が咲き競っています。
美しい花の季節をお楽しみください。



だ
よ
り

光風緑

さるすべり

百日紅

開花時期は、7/15頃～10/15頃。

中国原産。

8月頃咲く紅の濃淡または白色の花が美しく、耐病性もあり、必要以上に大きくならないため、しばしば好んで庭や公園などに植えられる。「幹がスベスベで、猿も登れない」ところから「さるすべり」と名がついた。花はしわしわの形。白い花もある。

A・B棟間でひっそり咲いているのを見つけました。つぼみも多く、これから夏の彩りとして私たちの目を楽しませてくれるのではないのでしょうか。

外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土	
診 察	1 診	黒田	柏木	中井	横田	黒田	横田
	2 診	松島	野村	松島	野村	横井	横井
	3 診	西側	澤田	植田	澤田	西側	植田
	4 診	福田	子安	正路	橋元	西岡	
	5 診	佐野	影山	川村	宮里	秋田	
	6 診	呉家	和田貴	吉田綾	吉田綾	土井	呉家
	7 診	村上智	村上智	小深田	和田大	作田	小深田
	8 診	西村	山田	西村	河野い	相馬	和田大
心 1	熊取谷	河野隆	作田	三秋	岩田	熊取谷	
心 2	宋	植月	荒川	清水喜	宋	植月	

ご紹介いただく際は予めご連絡をお願いいたします

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・口腔)は予約制です

医療機関からの入院・転院のご相談は地域医療連携室で承ります。

受診の前に下記へお電話ください。

電話 072-278-0381 代表 072-281-6615



診療科目

精神科 / 心療内科 / 児童精神科 / 内科 / 小児科 / 歯科

病床数

EPU 精神科救急 病棟 168床 (C1, H2, H3病棟)
児童精神科病棟 25床 (D1病棟)
亜急性期病棟 120床 (B2, C2病棟)
リカバリmix病棟 57床 (D2病棟)
メンタルケア病棟 90床 (E2, E3病棟)
老年性精神疾患病棟 60床 (D3病棟)
MPU 精神科合併症治療 病棟 50床 (H1病棟)
リハビリ 精神療養 病棟 60床 (F2病棟)
認知症治療病棟 60床 (F3病棟) 計690床

看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 スーパー救急 10:1
看護師比率70%以上・看護補助 30:1

関連施設紹介

認知症疾患医療センター
訪問看護ステーションふれあい
居宅介護支援事業所
ヘルパーステーションはんず
ケアホーム / こもれび・青空・そよかぜ
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電話072-278-0381
ケアホームあんずの郷
堺市中区八田北町309 電話072-278-2233
地域生活支援センターゆい
堺市中区深井東町3134 電話072-277-9555



当院は敷地内完全禁煙です



編集・発行 医療法人杏和会 阪南病院 地域医療連携室&総務課広報「光・風・緑」チーム

内科疾患勉強会

1年間の予定で、井上副院長による内科疾患勉強会が始まりました。主催は看護部、6月16日(木)第1回が開催されました。1回目は「肺炎について」その原因や診断方法、そして治療などわかりやすくご講義いただきました。医療スタッフには肺炎は身近にあって危険な病気であり、医療スタッフ外にも、聞きなじみのある病気だけに看護スタッフはもとより、ドクターや栄養士、リハビリスタッフなど多職種が集まる勉強会でした。



開催のきっかけ 精神科ではこれまで、精神をみるのが、精神科看護師の役割とされてきた傾向がありますが、今は、身体もしっかり診ることが求められると痛感していました。身体合併症病棟が機能していく現状の中で、内科の井上(副院長)先生が就任し、内科医の体制が充実すると、今まで以上に内科的疾患や治療の幅が増えることが予測されます。そのため知識や技術・ケアなどの看護のレベルアップを図ることが重要だと感じ、井上副院長にご相談の上、今回の勉強会開催に至りました。当初、病棟勉強会の予定でしたが、せっかくの機会なので、全職員を対象に実施していきます。

行事食七夕メニュー



児童精神科病棟庭園完成

子供たちが伸び伸び身体を動かせる場所として、児童精神科病棟付属の庭が完成しました。病棟内学習室から外に出ることができます。庭園には水が流れる空間、散策路などあり、今にも子のはしゃぐ声が聞こえそうです。庭は塀に囲まれて遮断されているので、外から見られている感じは受けないでしょう。少し植物が育つと、かくれんぼや鬼ごっこなど、子供たちが楽しんで遊べる空間になるのではないのでしょうか。写真を撮りに行った日も、入院中の子供さんがいつから使えるの?と興味津々な様子でした。病棟の中もアートが増えて子どもたちが嬉しそうに案内してくれました。



消防訓練 年に2回の実施が義務付けられている消防訓練ですが、今年は7月6日、昼間の病棟火災を想定し非難、消防訓練を行いました。

非常ベルが鳴り響くと、院内全体に火災が起こったことを連絡しなければなりません。事務所で緊急放送を入れ、火元病棟以外の職員は消火器を持って走ります。病棟では、患者さんを一人ひとり安全に誘導しつつ、棟外の広場へ非難しました。広場では立会いの中消防署員より、緊急時の動き方「絶対に走らない、あせらない」など説明を受け、30分程度で訓練は終了しました。階段の上り下りなど患者さんにはしんどい訓練でしたが、患者さんにも職員にも重要な訓練です。



暑い夏! 阪南の夏! 「こころの日イベント」開催!

今年も大盛況で320名の方に關心を寄せていただきました。「こころの日」は精神保健福祉法制定(1988年7月1日)にちなんで、精神疾患や障害者への理解を助け、心の健康の大切さを再認識することを目的に、日本精神科看護技術協会が主となって、病院ごとの取組みを呼びかけています。当院でも7月1日「こころの日」に、3年前より地域でイベントを行ってきました。



今年は「認知症への理解」を大きなテーマとし、泉ヶ丘駅前広場で開催。近くに高島屋や商店会があり、人の往来の多い場所に、広く場所をいただいて、認知症をはじめとした病気、栄養、認知症チェック、お薬など、様々な相談に医師、栄養士、PSWなどの専門スタッフが対応するコーナーがあり、午前・午後の2回、看護師が認知症症状を実演する寸劇、うちわやグッズの配布など、まさに盛りだくさんのイベント会場でした。

今回のイベントを通じ、地域の方に病院をアピールできるいい機会であったこと、地域の方にも、認知症や睡眠障害などは興味をひくようで、双方に有効なイベントだったのではないのでしょうか。時には外へ出て積極的に活動するのも大切です。当院の夏のイベントの定番のひとつになりそうなステキな1日でした。そして暑い中事故もトラブルもなく、盛況のうちに終了することができました。



「こころのケアチーム」派遣

東北地方太平洋沖地震から早4ヶ月が経過しました。当院では被災地の方々にできることがあればと、大阪府の要請に即応し、被災地での心のケアを目的とした「こころのケアチーム」へスタッフの派遣を行いました。これは大阪府が関西広域連合として岩手県で支援活動を行うに際し、大阪精神科病院協会を通じ、会員病院へ派遣の要請がきたものです。

対象は精神科医師、看護師、PSW、運転手ということで、当院でも5チーム編成し、支援要請をに返答いたしました。その中で今回派遣が決まったのが、医師1名と看護師1名。6月15日~20日まで岩手県の被災地で心のケアを行いました。

被災地では、岩手県山田町を拠点に、「第25班こころのケアチーム」の一員として参加、大阪チームは7月4日に被災地からの撤退が決定しており、ケアチームではあくまでも継続診察を必要としている被災者を地元医院・病院に繋ぐといった役割を担いました。

実際の現場では、大きなこころの傷を負った被災者の声に、ただただ傾聴するだけで精一杯だったようです。しかしこういった活動が少しでも、被災された方の心身の健康の一助になれば、また、1日も早い復興を祈りつつ、当院でもできることを行ってきたいと考えます。